

水素の「ミライ」、本格的に始動

水素で走る燃料電池自動車を公用車として導入

3月1日、浪江町と福島県は、水素で走る燃料電池自動車「新ミライ」(トヨタ自動車株式会社製)を公用車として導入することに伴い、福島県庁において、内堀福島県知事や吉田町長が出席の下、合同で納車式を行いました。

同車は、車載タンクに充填した水素と空気中の酸素の化学反応による発電で、モーターを作動させて走行。排出するのは水のみで、二酸化炭素を出さないことから「究極のエコカー」と呼ばれています。

町で、同車を公用車として導入するのは初めてであり、また、世界最大級の水素製造施設「福島水素エネルギー研究フィールド」(棚塩産業団地内)で製造された水素を燃料にした車が、県内を走行するのも初めてとなります。



「水素社会実現のために積極的にチャレンジを続けたい」と町長



多くの報道陣の注目を浴びて

「水素社会」の幕開けへ 浪江町を拠点の一つに

トヨタ自動車株式会社 豊田社長が水素製造施設を視察

3月5日、トヨタ自動車株式会社 豊田章男社長が、世界最大級の水素製造施設「福島水素エネルギー研究フィールド」(棚塩産業団地内)を、内堀知事や吉田町長が同行の下、視察しました。

同施設では、太陽光で発電した電気を使い、水を電気分解して水素を製造。製造の段階で二酸化炭素を排出しない「クリーンなエネルギー」であることから「グリーン水素」と呼ばれ、国が進める「脱炭素社会」実現の切り札として、今後の活用方法に注目が集まっています。

豊田社長は視察後、「水素社会の実現に向け、「水素の使い手、側の自動車会社としてどのような取組が可能か、浪江町の水素事業に参加し実証研究を進め、一緒に未来を作っていきたい」と話し、「浪江町産、水素の活用に向け、強い意欲を示しました。」



①



②



③



④

①そびえ立つ「水素貯蔵施設」の前で ②施設の説明を受ける豊田社長(右から2人目)。左隣は内堀知事 ③豊田社長(右)を案内する町長 ④視察を終えた豊田社長(左から2人目)。右隣は内堀知事

問 産業振興課産業創出係 TEL 0240(34)0248